

=====  
本メールマガジン[NEE Mail Magazine]は、経済教育ネットワークより会員の  
皆様にお送りしております。  
=====

◆◇-----◆◇  
◆ NEE Mail Magazine 117号 ◆

-----2018-10-1◆◇

10月、神無月、出雲では神有月になりました。

10月1日は、東京都は都民の日で公立学校はお休みです。みなさんの地域では、道、府、県民の日はいつでしょうか。それぞれ由来があるはずですが、お休みというだけで、なかなかそこまでは注意が向かないかもしれません。

また、10月1日は秋の衣替えの日でもあったのですが、近頃は必ずしも厳密に夏服・冬服の変更は行わなくなっているかもしれません。

10月は、秋本番で勉学には一番ふさわしい時期、そんな今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

-----  
【1】最新活動報告

18年9月の活動やニュースを報告します。

【2】イベントカレンダー・情報紹介

部会の案内、関連団体の活動、ネットワークに関連する情報などを紹介します。

【3】授業のヒント「思考実験はこわくない」

-----  
【1】最新活動報告

■東京部会(No.102)を開催しました。

日時:2018年9月15日(土) 14:00~16:30

場所:慶應義塾大学三田キャンパス研究棟 446 会議室

主な内容:参加者 16名

(1)「夏休み経済教室」に関する総括を行いました。

まず、鈴木深氏(東京証券取引所)より、資料とともに参加者のアンケート集計と内容の紹介がありました。以下、その一部を紹介します。

・参加者総数は837名で、昨年より78名減。

・経済教室を知ったきっかけでは、案内状が58.5%、東証HPが22.5%、ネットワークHPが11.5%、その他。

・担当教科では、中学校では公民41.1%、地理26.2%、歴史32.7%、その他(家庭科)。高校では公民49.5%、地歴40.3%、その他(家庭科、商業科)。

・年齢構成は、東京では記入者数での比率で言えば、10年未満が中学高校とも25%前後で約4分の1が若手。名古屋、大阪は若干ベテランが多い。

・参加回数では、初めてが46.3%、2回目18.1%、3~5回23.3%、6回以上14.0%。

これを受けて、参加者の自己紹介も兼ねたフリーディスカッションで経済教室に関する意見交換を行いました。

そのなかでは、今回のテーマである「授業づくりの舞台裏」を紹介することが高く評価されました。また、リピーターが多い一方、初めての人を次に続けて参加させるようなプログラムが必要との指摘もありました。さらに、授業提案が部会での検討を経てきているので高い評価が出ているのではという意見も出されました。

篠原代表からは、今年のプログラムも授業提案も質は高くなっている。とはいえ、どれだけ質が高く良いものでも、参加者が何を期待してきているのかという目的、また経験年数や力量の差により、プログラムの評価、各先生方の提案への評価が左右されているのではないかと指摘があり、来年度のプログラム作りの課題が多方面から提起されました。

(2)事務連絡では以下が報告されました。

- 1)北見でのWSは、地震の影響が少なく予定通り実施する方向で準備する。
- 2)札幌部会は延期。状況が落ち着いてから開催予定とする。
- 3)3月実施予定の「春の経済教室」に関して以下の内容が確認されました。

日時:3月16日(土)13時~16時40分

場所:慶應義塾大学南館4階445教室

テーマ:「行動経済学を経済教育にいかにかかすか」

プログラム:講演講師、実践報告者を至急確定してプログラム案を作成する。

その他:東京証券取引所に後援いただく。案内の送付などに協力ねがう。

(3)実践報告・教材提案関係では、参加者からの二つの報告がありました。最初は、岸香おり先生(ICU高校)の「軽減税率制度は望ましい税制度なのだろうか? 経済学的なものの見方で常識を疑う」の授業提案です。

この授業は、高校3年生向け「政治・経済」のなかで、経済の授業と選挙での政策選択(特に税制、財政)を組み合わせたものです。

選挙公約を読ませて最も評価する政策を選ぶ作業を行わせるなかで、軽減税率を良しとする意見が多く出たので、ラムゼイルール(価格弾力性が高い商品の税を重くする)をグラフを使って紹介し、生徒の選択に対してもう一度ゆさぶりをかけるというねらいの授業案です。

検討では、ラムゼイルールは一般の高校生には難しいのではという意見や、ラムゼイルールは税を取る立場からのものであり、立場によってその評価は変わることなども念頭において取り組む必要があるという意見などがでました。

この授業は、経済と政治をつなげるという意味では発展の可能性があり、さらに改良を加えて検討してゆくことになりました。

二番目は、杉浦光紀先生(都立井草高校)の「最後通牒ゲームと独裁者ゲームからさぐる公平性と利他性~分かち合いの起源と現代社会の考察~」の授業実践の報告と検討です。

これは、高校2年生向け「倫理」で実施されたもので、最初に最後通牒ゲームと独裁者をペアで行わせ、その結果からなぜそのような結果がでたのかを考察させ、その上で、関連の思想家を紹介するという構成の授業です。

この思考実験から、協力するにはどうしたらよいかを考える生徒がでたり、格差や経営・賃金問題など経済的事象に発展させて考察する生徒がでたり、囚人のジレンマや共有地の悲劇に言及する生徒がでるなど、授業の成果も紹介されました。

この実践は、新科目「公共」に向けての意欲的な授業であり、3月の「春の経済教室」のテーマにも近いので、今後さらに検討してゆくことになりました。

(4) その他連絡が二件ありました。

一つは、全国公民科・社会科教育研究会「授業研究委員会」研究集会(12月22日)のお知らせをネットワークからもお願いしたいという要請が、落合隆先生(神奈川県立相模原清陵高校)よりありました。

もう一つは、筑波大学附属中学の研究集会(11月10日)で、升野伸子先生が公開授業をされるとの報告がありました。

内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo102report.pdf>

■大阪部会(No.60)を開催しました。

日時:2018年9月22日(土) 18時00分~20時00分

場所:同志社大学 大阪サテライト

内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka60reportR.pdf>

---

## 【2】イベントカレンダー

---

<イベント予定です。(開催順)>

■経済教育ワークショップ【北見】(既報)

2018年10月9日(火) 北海道北見北斗高等学校で行います。

■春の経済教室

日時:3月16日(土)13時~16時40分

場所:慶應義塾大学南館4階 445教室

テーマ:「行動経済学を経済教育にいかにかかすか」

内容、参加方法が決まり次第HPに掲載いたします。

<定例部会のお知らせです。(開催順)>

■東京部会 (No.103)を開催します。

日時:2018年10月25日(土) 14:00~16:30

場所:慶應義塾大学三田キャンパス研究棟 446 会議室

■札幌部会 (No.20)は地震の影響が落ち着くまで延期いたします。

日時:未定

場所:キャリアバンク セミナールーム(予定)

---

### 【 3 】授業のヒント

---

■思考実験はこわくない

東京部会の杉浦先生の授業報告でもありましたが、思考実験が注目されています。これは、新科目「公共」のなかで登場して、先生方にちょっとした驚きを与えた言葉です。

思考実験そのものは、哲学の世界では古くから行われてきました。法哲学者の森村進さんの近著『幸福とは何か』(ちくまプリマー新書)では、「思考実験なくして哲学なし」とまで言っています。

なんだか、恐ろしいようなスローガンですが、内容をよく見てみると、これまで経済学や経済教育でも似たような取組みをしています。

森村さん曰く、「それ(思考実験)は現実の状況を複雑化させ明快な回答を難しくしている様々な要素をあえて捨象することによって、われわれが持っている直感・信念を明確に意識させるために役立つ道具として提出されている」と。

これって何かにとっても似ていませんか。そう、経済学で言えば理論モデルを作ってそこから問題を考えることと似た構造です。

経済学では、例えば、需給曲線でいえば、様々な人間の持つ要素を捨象して、合理的に物事を判断する経済人というありえない人間像を前提にして、さらに、価格以外の条件を一定(セトリスパリプス)としたグラフをつくる。そして、その知見をもとに今度は様々な条件を変化させ、現実の問題に接近させてゆく。

もちろん、哲学や倫理学と経済学では方向性は明確に違います。哲学や倫理学での思考実験は、本質的な部分を明確に意識させるための道具ですが、経済学の理論モデルは現状の分析する出発点のための道具ですから、方向性が違います。とはいえ、経済学でも扱われている思考実験は、次期の「公共」の学習指導要領解説でも登場しています。

その一つが、囚人のジレンマです。また、共有地の悲劇、最後通牒ゲームもそれにあたるでしょう。いずれも経済学のなかで登場する事例です。最後通牒ゲームは

最近の行動経済学での問題になっています。

経済学での思考実験は、得に、経済倫理学の書物でたくさん取り上げられています。ちょっと古くなりますが、竹内靖雄さんの『経済倫理学のすすめ』中公新書、には「問題」という形で多くの思考実験の例がたくさん登場しています。

一つだけ例をあげておくと、「A, B, Cの3人の社会の状態が10対2対1であるとして、それを8対3対2に改善することはよいことか」という問題があります。この種の問題は、いきなり、格差がどこまでゆるされるかという問いではなく、単純なモデル社会を想定してそこでの分析から、どんな社会が望ましいか、人間にとって幸福かを考えさせる思考実験です。さらに、福祉国家における再分配問題となり、政策選択に問題がひろがります。

夏の経済教室では、「問い」も話題になりました。生徒の頭、価値観を刺激する「問い」を現実のなかから探しだし、思考実験として教室で生徒になげかける。素材は身近にたくさんころがっているはずです。その意味では、思考実験はこわくないし、哲学・倫理学だけでなく、経済教育からのアプローチが期待される分野と言えるでしょう。

それにしても、おもしろいことに森村さんも竹内さんもどちらもリバタリアンといって良いでしょう。ということは、思考実験とリバタリアンはどこか親和性があるのかもかもしれませんね。それはなぜかを考えるのも思考実験になりそうです。(新井)

---

#### 【 4 】編集後記(みみずのたはこと)

---

今夏はとにかく自然災害が頻発した年です。9月には北海道で大きな地震とその後のブラックアウトが発生しました。札幌部会に集まる先生方の職場、自宅など大変な思いをされたのではないかと思います。一日も早い復旧を願うとともに、出来る範囲で支援をしてゆければと考えています。そのためにも、まずは延期された部会が再開されたら、ぜひお邪魔したいと思っています。(新井)

---

登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>

---



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

(C) Network for Economic Education ◆◇